

麻しんおよび風しんの発生状況

国立感染症研究所感染症情報センター第2室
島田智恵

国立感染症研究所麻しん対策技術支援チーム

1

発表の内容

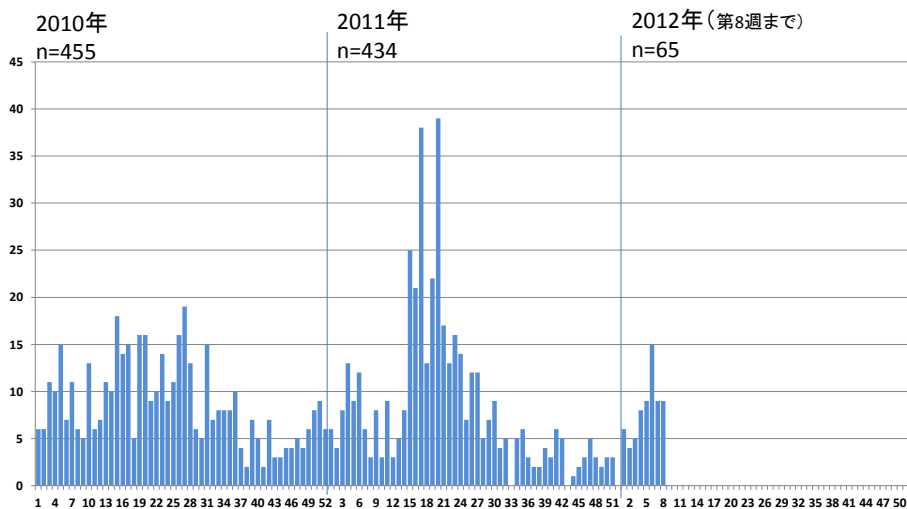
- 麻しんの発生動向
 - 2010～2012年の推移
 - 週別報告数
 - 都道府県別百万対報告数
 - 年齢群別接種歴別報告数(2011年)
 - 2008～2012年の推移
 - 年齢群別麻しん報告数割合
 - 接種歴別麻しん報告数割合
 - 病型別麻しん報告数割合
 - 感染推定地域別週別麻しん報告数
 - 遺伝子型が報告された症例の内訳
 - 世界の麻しん発生状況
- 風しんおよび先天性風しん症候群の発生動向
- まとめ

2

麻しんの発生動向

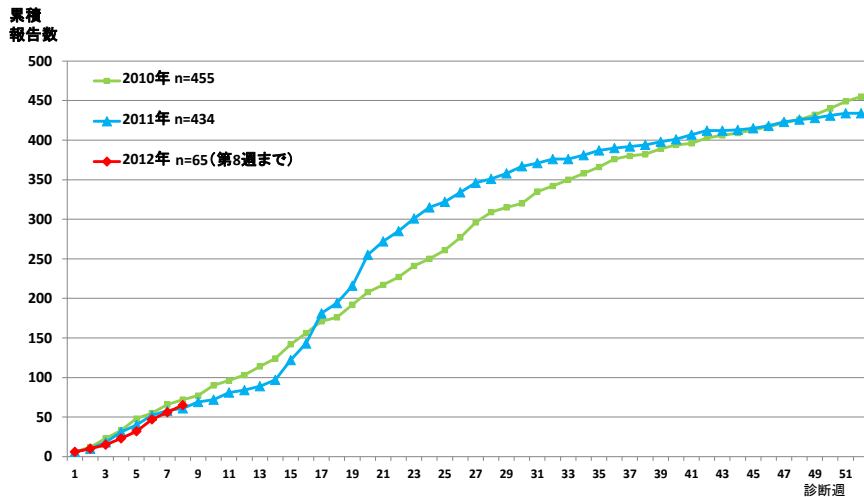
3

週別麻しん報告数の推移 2010～2012年第8週(2012年2月29日現在)



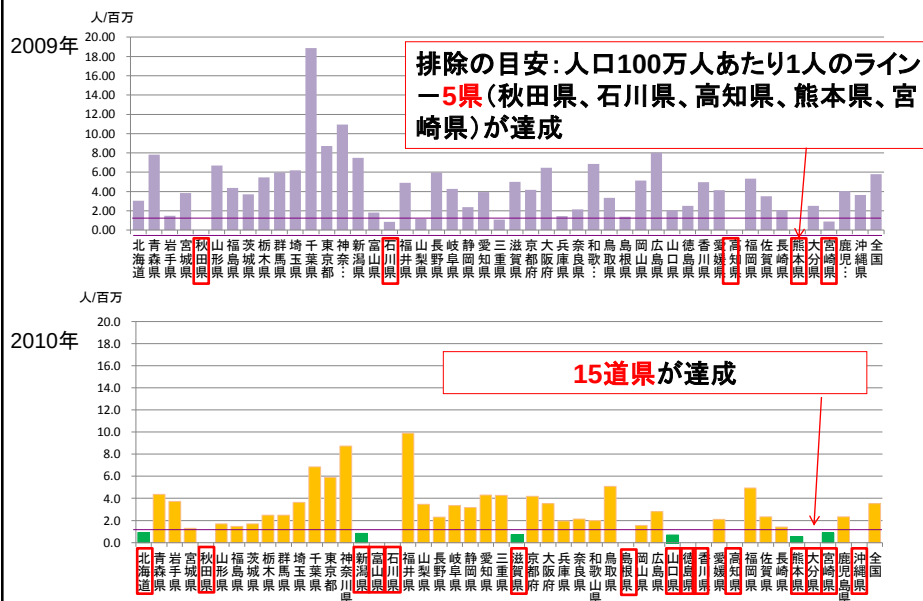
4

週別麻しん累積報告数の推移 2010～2012年第8週(2012年2月29日現在)



5

都道府県別人口百万対麻しん報告数

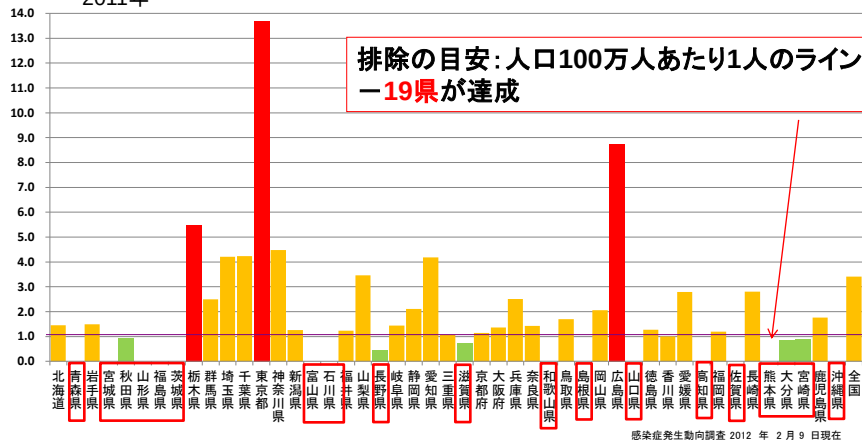


6

都道府県別人口百万対麻しん報告数

人/百万

2011年



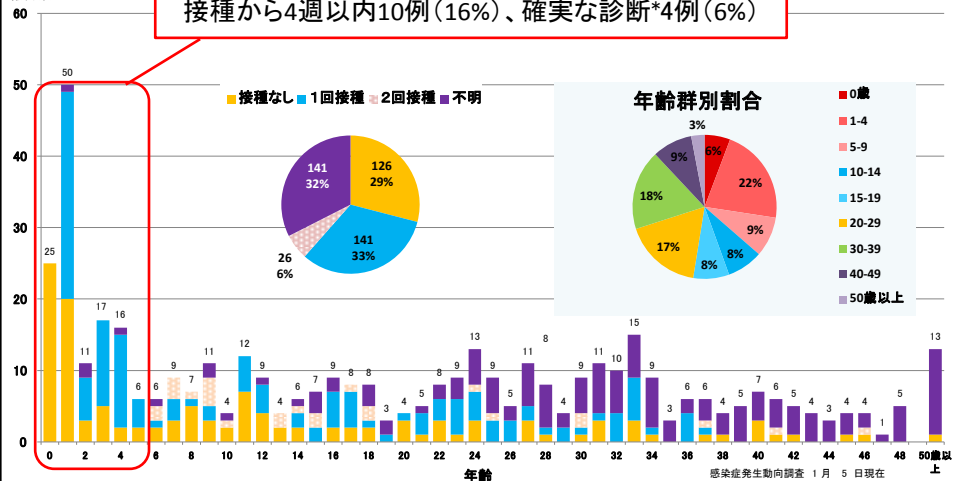
- ・2年連続(2010~11年)達成: 富山県、滋賀県、島根県、山口県、大分県、沖縄県
- ・3年連続(2009~11年)達成: 秋田県、石川県、高知県、熊本県、宮崎県

7

年齢別接種歴別麻しん累積報告数

2011年(n=434)

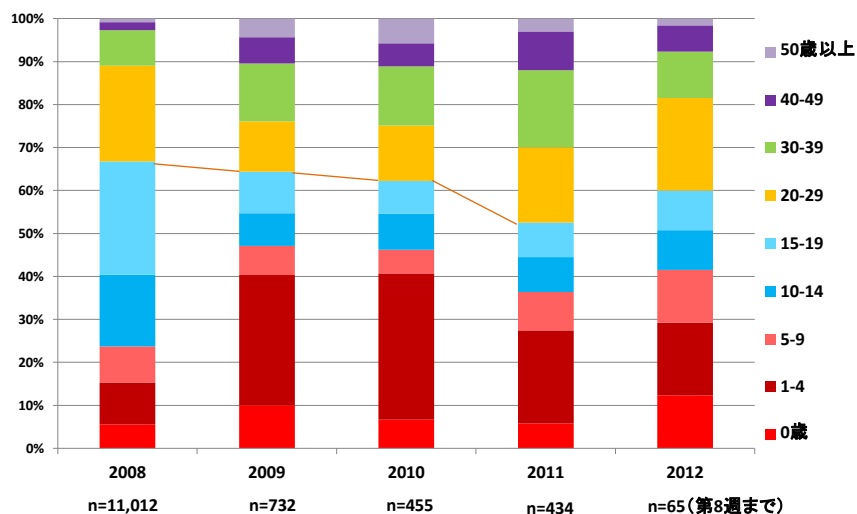
報告数



*ここでは、PCRでの麻疹ウイルス遺伝子の検出(2例)、IgM $\geq$ 8.0(1例)、急性期と回復期のペア血清での有意上昇(1.78 $\rightarrow$ 8.21、1例)とした。

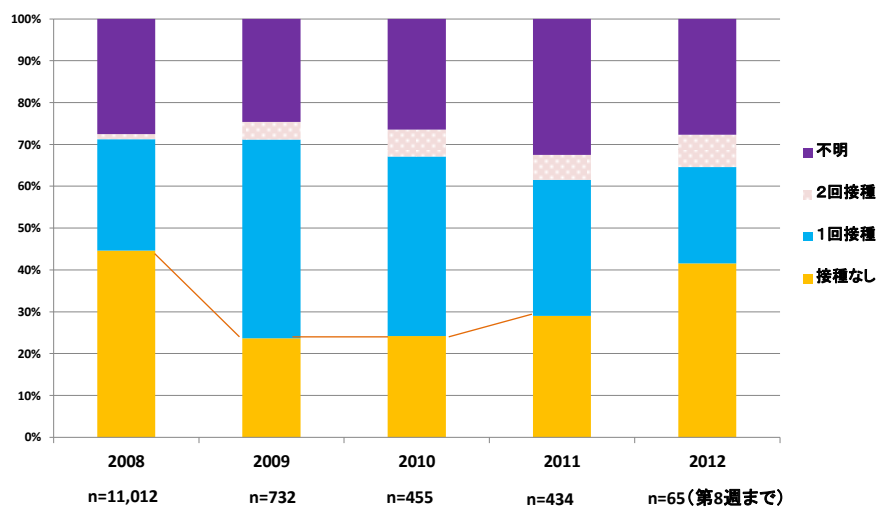
8

年齢群別麻疹報告数割合 2008～2012年第8週(2012年2月29日現在)

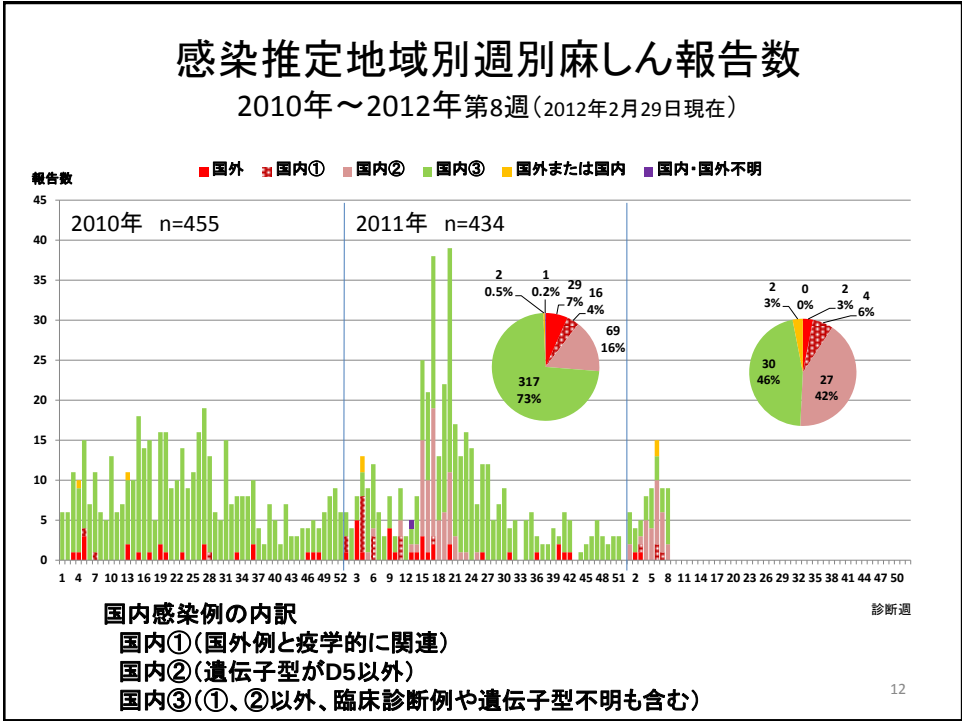
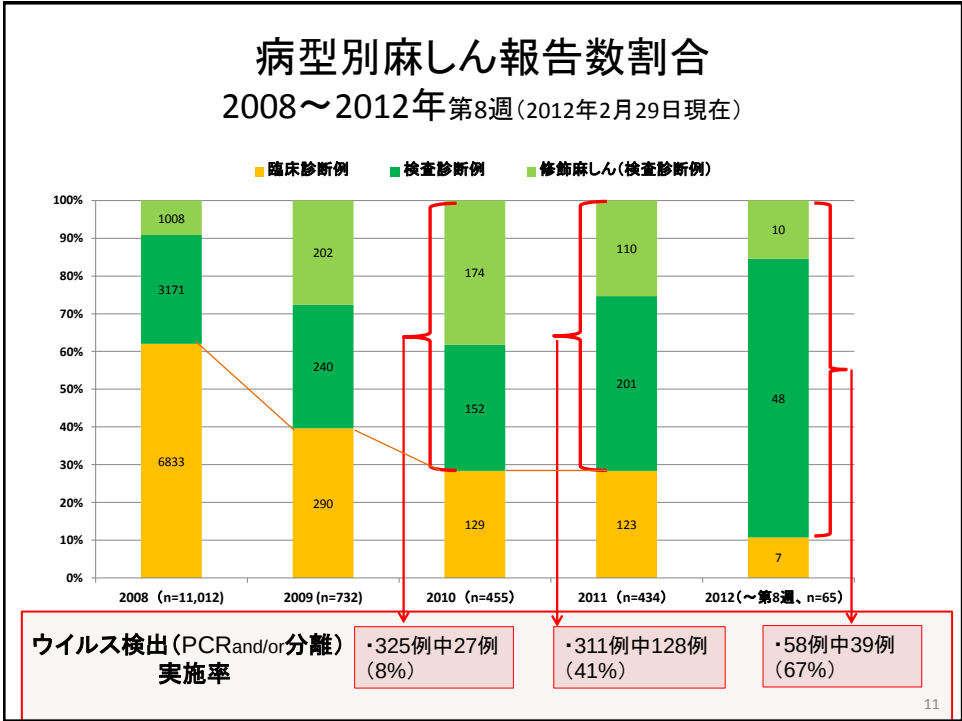


9

接種歴別麻疹報告数割合 2008～2012年第8週(2012年2月29日現在)



10



麻疹ウイルスの遺伝子型が報告された症例の内訳2012年第1～8週（2012年2月29日現在*）
<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/idnnsi2012/idnnsigata12-08.html>

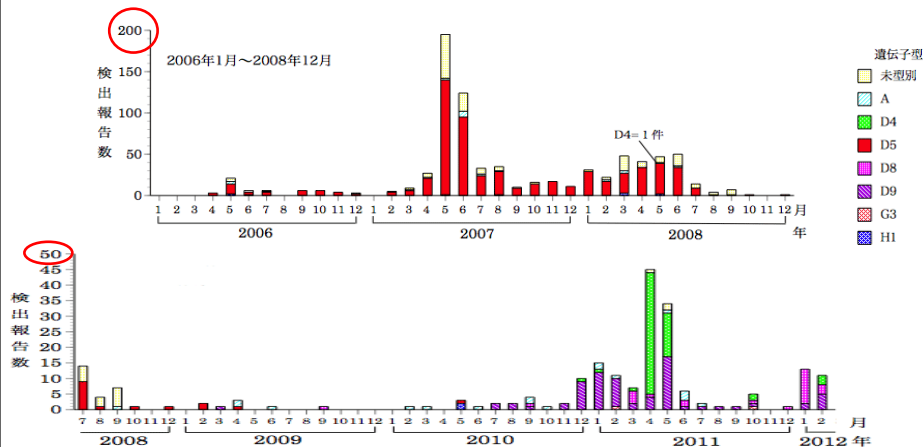
遺伝子型	診断週	報告都道府県	発熱出現日 (年の記載のないものは全て2012年)	年齢・年齢群 [†]	性別	感染地域	ワクチン接種歴
D4	6	東京都	1月31日	30～34	男	東京都	不明
	6	東京都	2月1日	1	女	東京都またはベトナム	無
	6	千葉県	2月1日	15～19	女	千葉県	無
	6	大阪府	2月2日	30～34	女	大阪府またはイギリス	無
D8	1	愛知県	2011年12月30日	10～14	男	愛知県	無
	1	愛知県	1月2日	10～14	女	愛知県	無
	2	東京都	1月5日	25～29	男	タイ	無
	3	愛知県	1月20日	4	女	愛知県	1回
	4	山梨県	1月20日 [‡]	20～24	男	山梨県	不明
	4	山梨県	1月22日 [‡]	1	女	山梨県	無
	4	千葉県	1月20日 [‡]	30～34	女	千葉県	無
	4	千葉県	1月19日	25～29	女	千葉県	1回
	4	岐阜県	1月14日	25～29	男	岐阜県	1回
	5	岐阜県	1月25日	20～24	女	岐阜県	不明
	5	岐阜県	1月25日	0	男	都道府県不明	無
	5	愛知県	1月29日	1	男	愛知県	無
	5	愛知県	1月29日	1	男	愛知県	無
	6	千葉県	1月29日	30～34	女	千葉県	1回
	6	千葉県	1月30日	1	男	千葉県	無
	6	愛知県	2月3日	5～9	女	都道府県不明	不明
	6	愛知県	2月6日	20～24	男	愛知県	不明
	6	愛知県	2月7日	5～9	男	都道府県不明	無
	7	愛知県	2月7日	35～39	男	愛知県	不明
	7	千葉県	2月11日	30～34	女	都道府県不明	不明
	7	愛知県	2月11日	0	女	都道府県不明	無
	7	愛知県	2月15日	5～9	女	愛知県	無
	7	愛知県	2月15日	20～24	女	愛知県	1回
	8	愛知県	2月17日	0	女	愛知県	無
D9	3	岡山県	1月11日 [‡]	5～9	女	フィリピン	無
	3	岡山県	1月18日 [‡]	5～9	男	岡山県	無
	6	東京都	2月2日	25～29	女	東京都	不明
	6	岡山県	2月3日 [‡]	10～14	男	岡山県	無
	6	岡山県	2月4日 [‡]	1	女	岡山県	無
	7	岡山県	未入力	40代	女	岡山県	不明
	8	千葉県	2月19日 [‡]	0	男	千葉県	無

* 感染症サーベイランスシステム(NESIS)へ遺伝子型が入力されている症例を集計しているため、病原体情報とは報告数が一致していない場合もある。地方衛生研究所(地研)から報告されている「病原体情報」に基づく「麻疹ウイルス分離・検出状況」は<http://idsc.nih.go.jp/iasr/measles.html> 参照。
[†] 発熱日月のみの入力のあるものは発熱日月日を掲載。 10～4歳:3歳刻み、5～39歳:5歳刻み、40～59歳:10歳刻み、60歳以上

13

月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、
 2008年7月～2012年2月（病原体検出情報:3月4日現在報告数）

- 2006～2008年に国内例から検出された株のほとんどがD5型であった。
- A型はワクチン株である。
- 2010年11月以降、積極的にウイルス学的検査が行われている傾向。



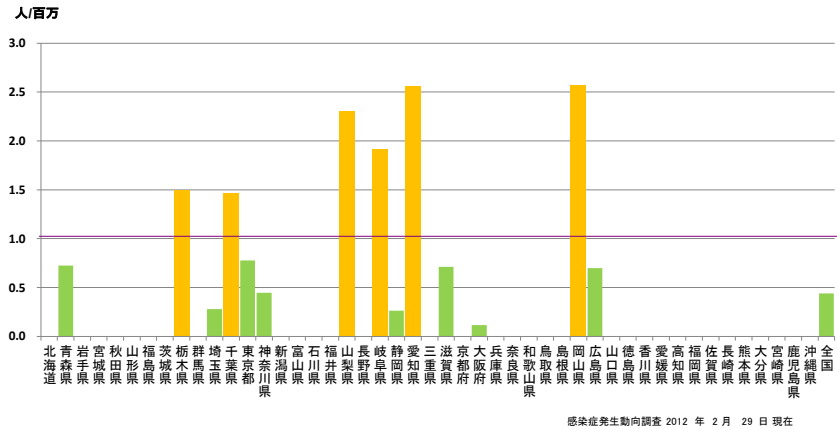
14

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph/masin1.gif>

IASR
 Infectious Anomalous Surveillance Report

都道府県別人口百万対麻しん報告数

2012年第1～8週(2012年2月29日現在)

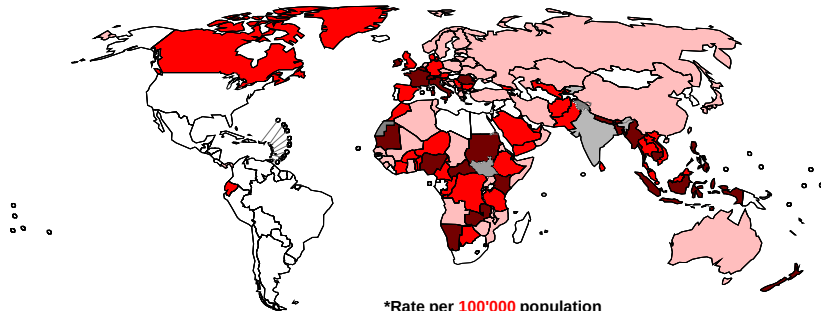


15

世界の麻しん発生状況

16

Reported Measles Incidence Rate*, Dec 2010 to Nov 2011



*Rate per 100'000 population

- <0.1 (77 countries or 40%)
- ≥0.1 - <1 (43 countries or 22%)
- ≥1 - <5 (38 countries or 20%)
- ≥5 (24 countries or 12%)
- No data reported to WHO HQ (11 countries or 6%)
- Not applicable

Data source: surveillance DEF file

Map production: Immunization Vaccines and Biologicals, (IVB), World Health Organization

Data in HQ as of 11 January 2012

The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

©WHO 2012. All rights reserved.

17



世界における麻疹の発生状況

厚生労働省検疫所HP より (2月10日現在)

<http://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/2012/02091016.html>

ヨーロッパ・アフリカ地域

国名	2011年1月～11月		2010年1月～11月	
	症例数	人口10万人に対する割合※	症例数	人口10万人に対する割合※
オーストリア	99	1.2	41	0.5
ベルギー	564	5.2	40	0.4
ブルガリア	154	2.1	21 940	290.1
キプロス	0	0	18	2.2
チェコ	16	0.2	0	0
デンマーク	83	1.5	5	0.1
エストニア	7	0.5	0	0
フィンランド	27	0.5	0	0.1
フランス	15 076	23.2	4 022	6.2
ドイツ	1 480	1.8	721	0.9
ギリシャ	40	0.4	148	1.3
ハンガリー	0	0	0	0
アイスランド	0	0	0	0
アイルランド	298	6.7	399	8.9
イタリア	5 090	6.4	752	1.2
リトアニア	1	0.04	0	0
リビア	7	0.2	2	0.1
ルクセンブルグ	6	1.2	0	0
マルタ	4	1.0	0	0
オランダ	46	0.3	12	0.1
ポルトガル	38	0.3	3	0.1
ポーランド	39	0.1	13	0.03
ポルトガル	1	0.009	5	0.05
ルーマニア	2 818	13.1	107	0.5
スロバキア	2	0.04	0	0
スロベニア	22	1.1	5	0.2
スペイン	1 914	4.1	238	0.5
スウェーデン	26	0.3	0	0.0
英国	1 030	1.6	391	0.6
合計	28 887	5.7	28 888	5.7

※通知割合はEurostat(2011)から利用可能な最も最近の推定人口を使用して、人口10万人につき計算されました。

…人口10万人に対する割合が5人以上の国

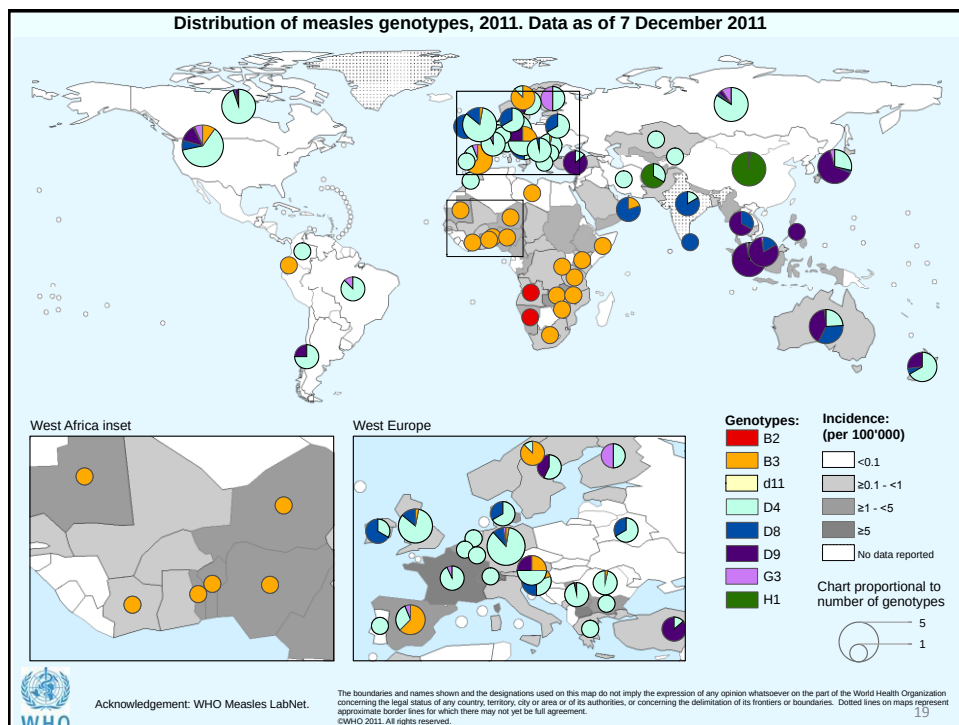
アジア・太平洋地域

国名	2011年1月～12月		2010年1月～12月	
	症例数	人口100万人に対する割合	症例数	人口100万人に対する割合
オーストラリア	188	8.3	70	3.1
ブルネイ	3	7.4	0	0
カンボジア	722	50.5	1 156	81.8
中国	10 228	7.6	38 131	28.5
香港(中国)	13	1.8	11	1.6
日本	409	3.2	430	3.4
ラオス	87	13.8	153	24.7
マカオ(中国)	1	1.8	0	0
マレーシア	1470	50.9	74	2.6
モンゴル	0	0	7	2.5
ニュージーランド	589	133.4	48	11.0
フィリピン	6560	69.2	6 388	68.5
韓国	42	0.9	114	2.4
シンガポール	141	27.2	54	10.6
ベトナム	1075	12.1	1 826	20.8
タイ	2	2.3	1	1.2
合計	21 530	11.9	48 513	27.0

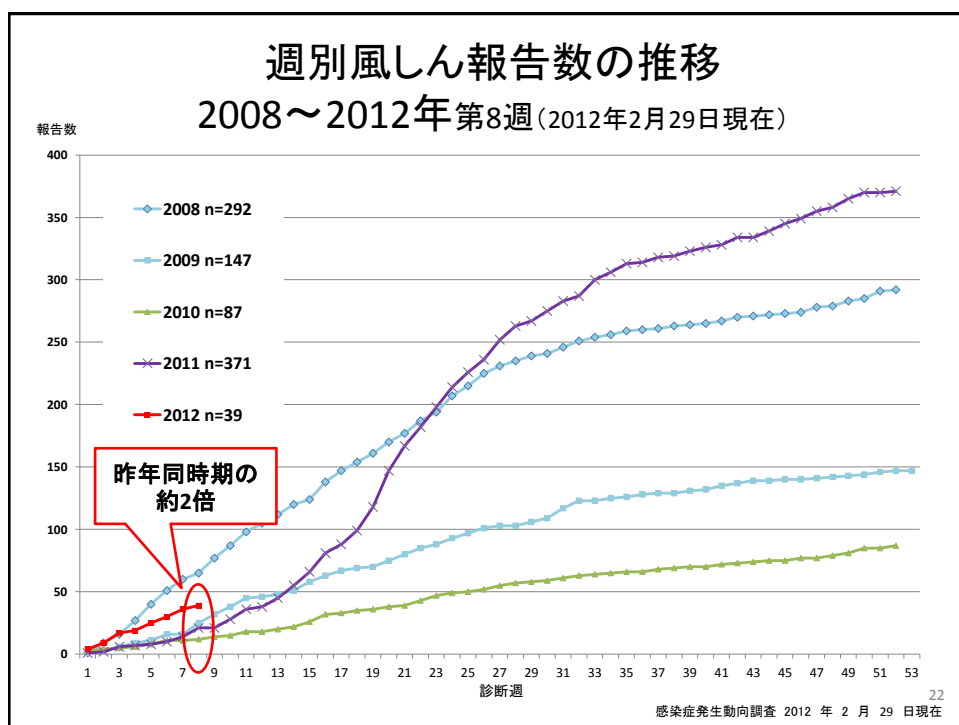
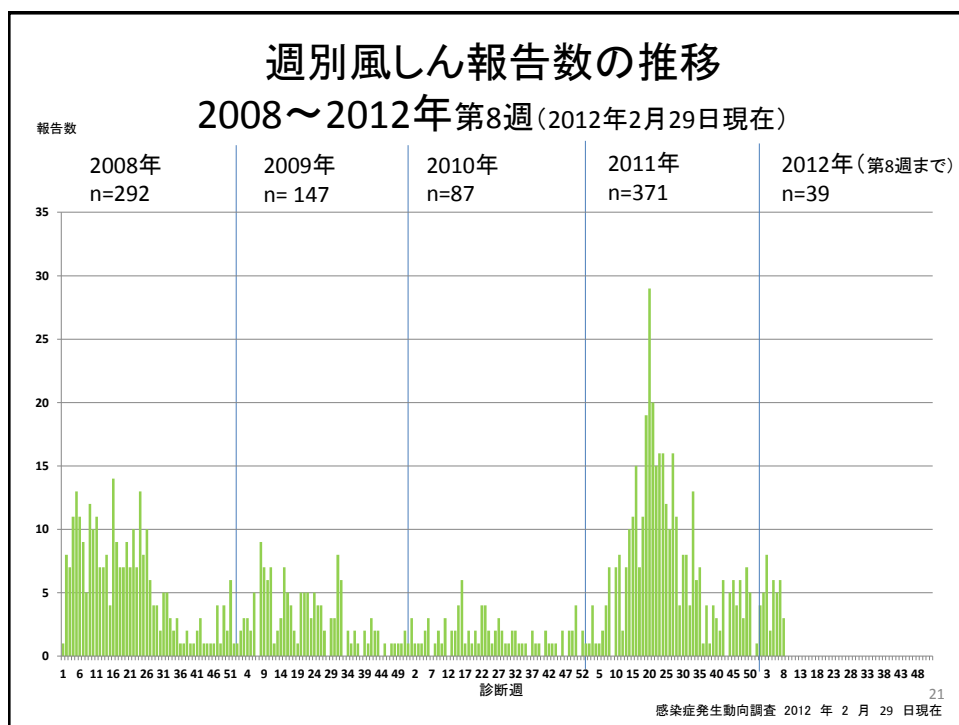
国名	2011年1月～12月		2010年1月～12月	
	確定症例数	確定症例数	確定症例数	確定症例数
バングラデシュ	1 788	46	21	21
ブータン	9	1 230	1 229	1 229
インド	2 469	570	570	570
インドネシア	1	0	0	0
モルディブ	1 190	61	61	61
ミャンマー	126	47	47	47
ネパール	6	31	31	31
スリランカ	95	4	4	4
タイ	84	0	0	0
東ティモール	7 048	1909	1909	1909
合計	7 048	1909	1909	1909

…確定症例数が前年同時期の10倍以上の国

18

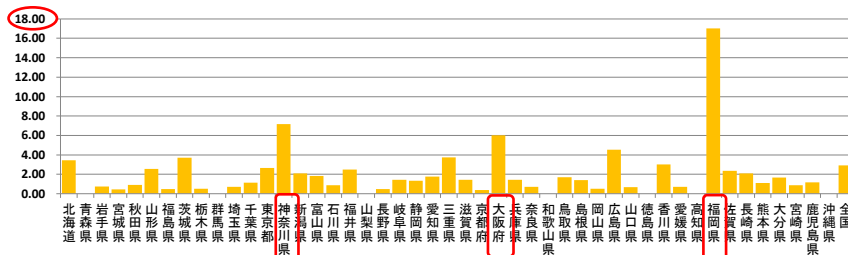


風しんの発生状況

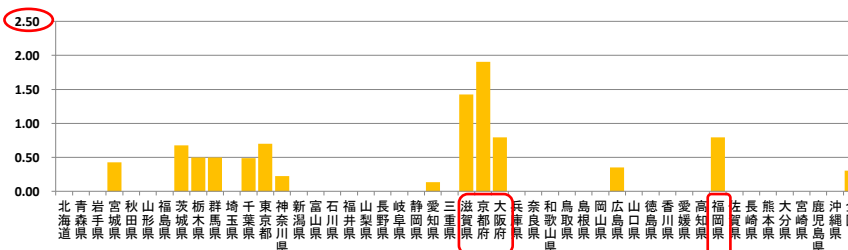


都道府県別人口百万対風しん報告数

2011年第1週～52週 (n=371)



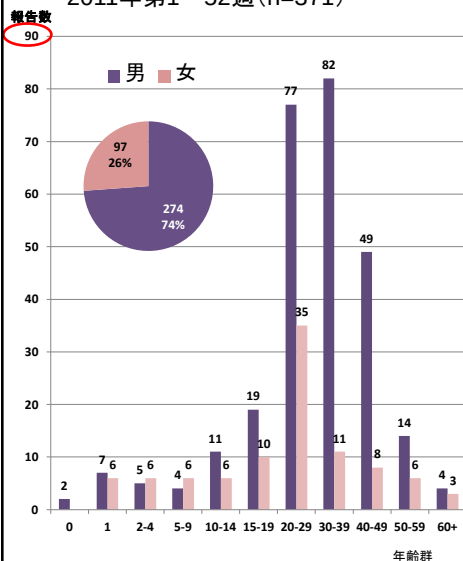
2012年第1～8週 (n=39)



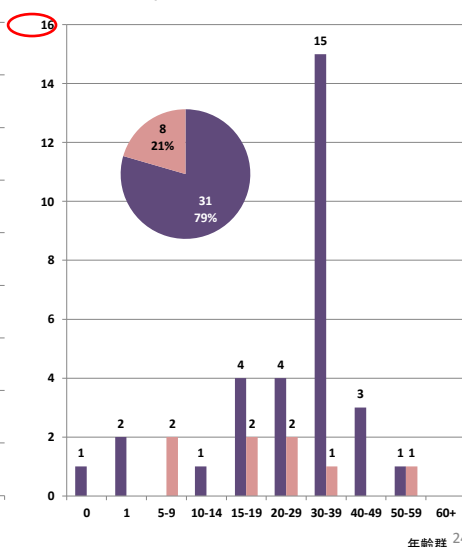
23

男女別年齢群別風しん報告数

2011年第1～52週 (n=371)



2012年第1～8週 (n=39)



年齢群 24

先天性風しん症候群の報告 1999年－2012年(2012年2月29日現在)

年	報告都道府県	性別	母の予防接種歴	母の妊娠中の風疹罹患歴	年	報告都道府県	性別	母の予防接種歴	母の妊娠中の風疹罹患歴
2000	大阪	女	なし	なし	2004	鹿児島	女	あり(記憶のみ)	なし
2001	宮崎	女	不明	不明		神奈川	男	あり(記憶のみ)	なし
2002	岡山	男	不明	あり		熊本	男	なし	あり
2003	広島	女	なし	あり		長野	女	不明	あり
2004	岡山	女	不明	あり		大分	女	なし	不明
	東京	女	不明	あり	2005	大阪	男	不明	あり(国外での感染)
	岡山	女	あり(母子手帳に記載)	なし		愛知	女	不明	あり
	東京	男	なし	あり	2009	長野	男	なし	あり(国外での感染)
	東京	女	なし	あり		愛知	男	あり(詳細不明)	あり
					2011	群馬	女	不明	あり(国外での感染)

・1999年(4月～)、2006～08年、2010年は報告なし

感染症発生動向調査(2012年2月29日現在) ²⁵

まとめ

麻しん

- ・人口百万人あたりの発生数が1.0を下回る自治体が増加した。
- ・2009年以降、20歳以上の成人が占める割合が増加傾向にあり、2011年は47%に達した。社会的な活動性の高い20～30代が報告患者全体の35%を占めている
- ・5歳以下で1回の接種歴がある症例計63例のうち、RT-PCR法等で確実な麻しんの診断が確認できたのは、4例のみだった。
- ・ウイルスあるいはウイルス遺伝子の直接検出による検査診断(RT-PCR法あるいはウイルス分離)が積極的に実施されるようになった結果、2011年以降に海外渡航歴がなく、渡航者との接触も明らかでない国内感染例から検出され遺伝子型別された株は全て海外由来型(D4,D8,D9,G3)で、2007-2008年に国内で大流行の原因となった遺伝子型D5の麻疹ウイルスは1年以上検出されていないことがわかった。
- ・2012年に入って「輸入例」、特に遺伝子型D8の麻疹ウイルスがその後国内で拡大している様子がうかがえる。今後定着させないためにも予防接種の徹底が必要である

風しん

- ・2011年は7年ぶりの地域流行が発生し、全数報告になった2008年以降では最多の報告数で、成人男性が60%を占めた。2012年も引き続き流行が懸念され、先天性風しん症候群発生リスクが高まっている。